

研究支援事業  
学術集会の開催

**第 82 回日本血液学会学術集会 プログラム概要**

開催形態：新型コロナウイルス感染症の拡がりを考慮して、Web 中心に開催

会 期：【現地開催】令和 2 年 (2020) 年 10 月 10 日 (土) ～10 月 11 日 (日)

【WEB 開催】令和 2 年 (2020) 年 10 月 10 日 (土) ～11 月 8 日 (日)

※ 現地開催への参加は、理事会や委員会に出席対象となる参加者に限定

Speakers' Reception や懇親会等の催事は全て中止

現地開催会場：国立京都国際会館 Room A

会 長：宮崎 泰司 (長崎大学原爆後障害医療研究所 原爆・ヒパカン医療部門 血液内科学研究分野)

テーマ：血液学—多様性の追求 Exploring diversity in Hematology

参加者数：5,817 名

プログラム：

【発表形式】以下のとおり 4 パターンにて実施

- ① 現地開催を行い、かつその模様を LIVE 配信。後日 WEB にて配信。
  - ・会長講演 1 題
  - ・JSH 学会賞受賞講演 1 題
  - ・Plenary Session 6 題  
(・Opening Ceremony、社員総会)
- ② セッションの模様を収録し、後日 WEB にて配信
  - ・SETP (Scientific Exchange Training Program) 4 テーマ (8 題)
- ③ 会期中一部の時間帯のみで LIVE (または収録したデータの) 配信
  - ・コーポレートセミナー 69 セミナー
- ④ WEB のみで動画 (またはスライドのみ) を配信
  - ・特別講演 3 題 (Special Lecture、ASH Special Lecture、EHA Special Lecture)
  - ・シンポジウム 12 テーマ (57 題)  
(Presidential Symposium、JSH-ASH Joint Symposium、JSH-EHA Joint Symposium)
  - ・Asian Joint Panel Discussion 7 題
  - ・教育講演 59 題
  - ・はじめての血液学 8 題
  - ・女性医師キャリアシンポジウム 3 題
  - ・一般口演 596 題
  - ・一般ポスター 444 題
  - ・EHA-JSH Joint Symposium (26th EHA Virtual Congress 収録) 2 題

**国 際**

- ・第 12 回国際シンポジウム (The 12th JSH International Symposium in Kamakura)

会 長 猪口孝一

日 時 2021 年 5 月 14 日 (金) ～5 月 15 日 (土)

会 場 鎌倉プリンスホテル (神奈川県鎌倉市)

テーマ Diversity of molecular targets and immunotherapy

- ・第 82 回日本血液学会学術集会 (WEB 開催) における ASH および EHA Special Lecture/JSH-ASH Joint Symposium/JSH-EHA Joint Symposium/Asian Joint Panel Discussion

ASH Special Lecture

Martin S. Tallman “Novel therapeutic strategies in AML”

JSH-ASH Joint Symposium < Recent Advances in Myelodysplastic Syndromes >

Timothy Graubert, Guillermo Garcia-Manero, Hideki Makishima, Ken Ishiyama

EHA Special Lecture

John Gribben “The unique tumor microenvironment in B cell malignancies”

JSH-EHA Joint Symposium < Evolving paradigm for blood cell differentiation >

Bertie Göttgens, Claus Nerlov, Hiroshi Kawamoto, Ayako Nakamura-Ishizu

Asian Joint Panel Discussion < Current Status of Acute Myeloid Leukemia / Myelodysplastic Syndromes in Asian Countries >

Suning Chen(China), Hsin-An Hou(Taiwan), Pimjai Niparuck(Thailand), Hee-Je Kim(Korea), Soniya Nityanand(India), Melissa G. Ooi(Singapore), Naoko Hosono(Japan)

• **26th EHA Virtual Congress** における EHA-JSH Joint Symposium

< **Induced Pluripotent Stem Cells as disease models** >

Chairs: Drs. John Gribben (EHA President) & Itaru Matsumura (JSH President)

Dr. Shinya Yamanaka “Recent Progress in iPS Cell Research and Application”

Dr. Ivo Touw “Congenital neutropenia: Lessons learned from iPS cells and beyond”

• **2021 Highlights of ASH in Asia-Pacific Virtual** 招待参加者

那須 涼 (国立国際医療研究センター病院)

原 隆二郎 (東海大学医学部血液・腫瘍内科)

松田 健佑 (東京大学医学部附属病院血液・腫瘍内科)

若松 学 (名古屋大学大学院医学系研究科小児科学)

• **JSH Abstract Achievement Award for The EHA2021 Virtual Congress** (各10万円)

安部 佳亮 (筑波大学人間総合科学研究科疾患制御医学) “A comprehensive single-cell atlas of nonhematopoietic cells in human lymph node and lymphoma reveals landscape of stromal remodeling”

佐藤 成 (東京大学医科学研究所細胞療法分野) “CHIP-associated mutant ASXL1 activates innate immune pathway in myeloid cells and promotes atherosclerosis in mice”

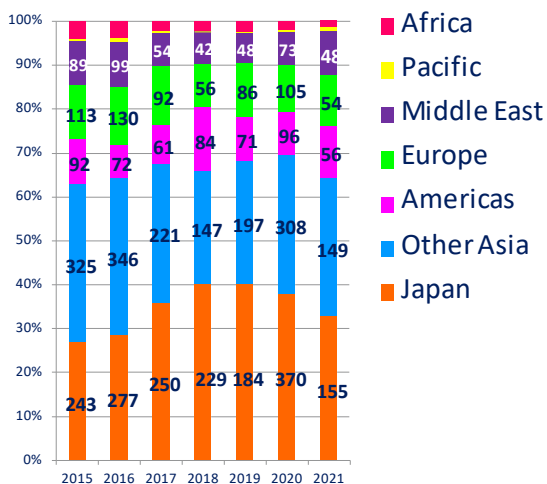
千葉 雅尋 (北海道大学医学部血液内科) “Whole-genome CRISPR library screens identify CD48 as an essential molecule in adult T-cell leukemia/lymphoma for defining susceptibility to natural killer cell-mediated cytotoxicity”

辻 紀章 (金沢大学医薬保健研究域医学系血液内科学) “Glycosylphosphatidylinositol-Anchored Protein Deficiency Confers Resistance to Antigen-Specific T Cells on Hematopoietic Stem Progenitor Cells in Aplastic Anemia Patients with HLA-DR15”

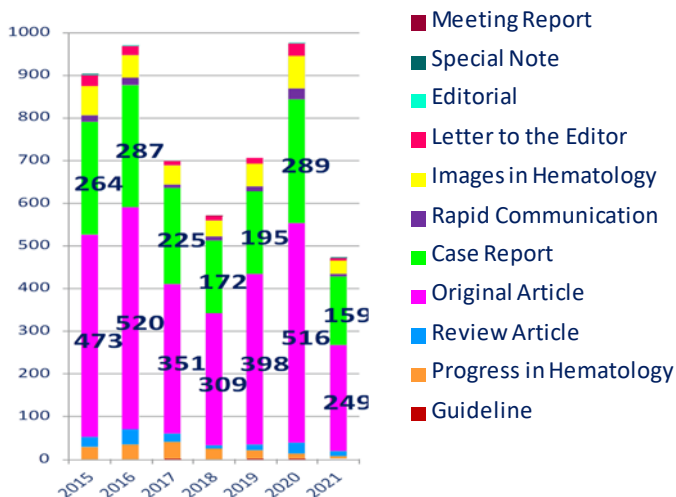
師川 紘一 (信州大学医学部小児医学教室) “Cord-blood-derived T and natural killer cells engineered via the piggyBac transposon system to express a ligand-based CAR targeting the CD116/CD131 complex”

渡邊 達郎 (佐賀大学創薬科学講座) “Aberrant epigenetic regulation through metabolic reprogramming in ATL leukemogenesis”

《地域別投稿数》



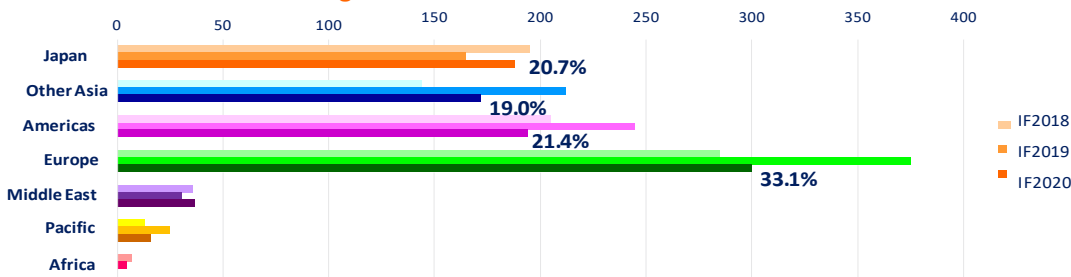
《論文種別投稿数》



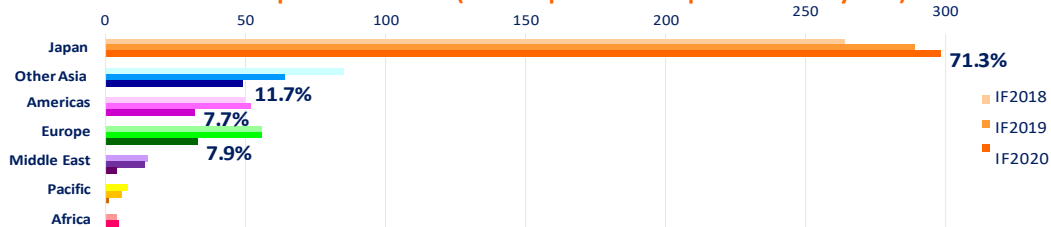
《2018-2020年に出版されたIJHの地域別引用状況》

投稿数：2017年657件, 2018年572件, 2019年706件, 2020年976件, 2021年473件 (7/31現在)

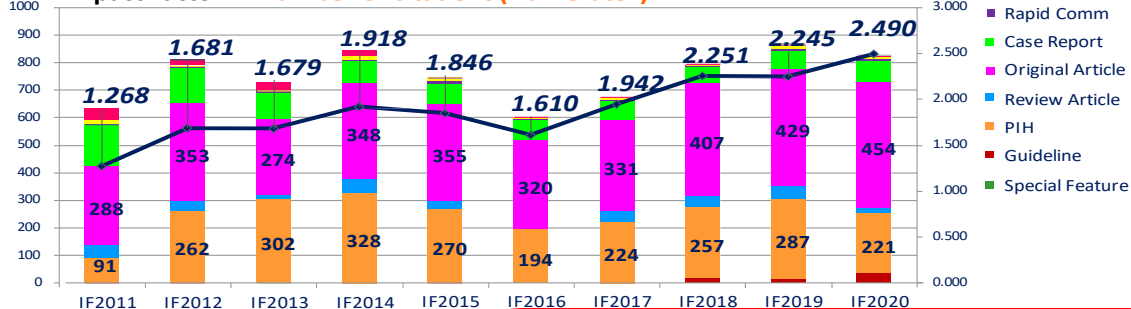
Location of authors citing IJH



Location of authors published in IJH (articles published in previous two years)

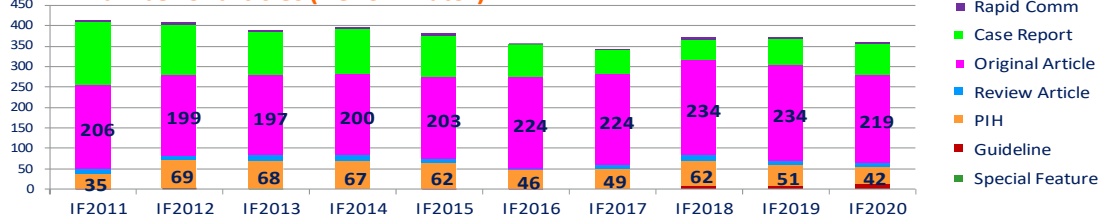


<<Impact factor>> Number of citations (Numerator)



IF2019 w/o Guideline = 2.245 IF2020 w/o Guideline = 2.289

Number of articles (Denominator)



(Sources: Clarivate Analytics, Web of Science, as of 30 Jun 2021)

# 「臨床血液」誌 《2021.8.18 現在》

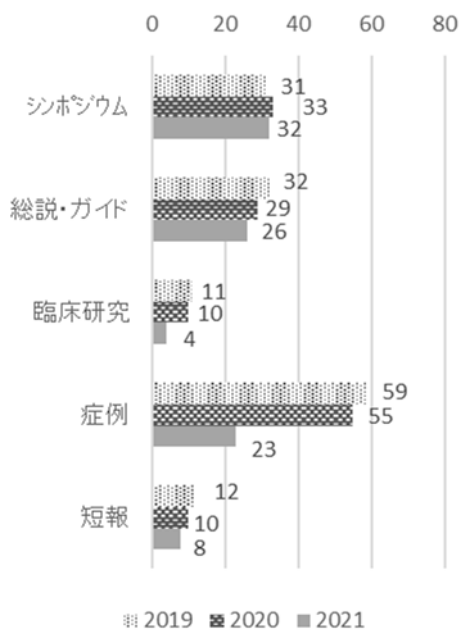
## 2020年発刊状況

巻/号	頁数	シホ°	総説	臨研	症例	短報	計
61-1	97	2	1	2	3	1	9
61-2	114	0	0	0	4	1	5
61-3	84	0	0	1	10	1	12
61-4	138	3	8	0	5	0	16
61-5	147	3	10	0	5	0	18
61-6	140	8	3	2	2	0	15
61-7	132	11	1	0	3	1	16
61-8	151	6	5	1	4	1	17
61-9	439	第82回学術集会 教育講演号				55	
61-10	113	0	1	1	8	2	12
61-11	83	0	0	2	9	1	12
61-12	88	0	0	1	2	2	5
計	1,726	33	29	10	55	10	192

## 2021年発刊状況

巻/号	頁数	シホ°	総説	臨研	症例	短報	計
62-1	75	0	0	1	7	3	11
62-2	77	0	4	0	2	1	7
62-3	71	0	0	2	4	3	9
62-4	113	5	2	1	4	1	13
62-5	205	9	12	0	2	0	23
62-6	160	4	7	0	1	0	12
62-7	176	14	1	0	3	0	18
62-8		第83回学術集会 教育講演号				54	
62-9							0
62-10							0
62-11							0
62-12							0
計	877	32	26	4	23	8	147

### カテゴリー別掲載状況



### ◆採用日数平均◆

57巻	80.5日
58巻	85.6日
59巻	86.3日
60巻	87.4日
61巻	66.8日

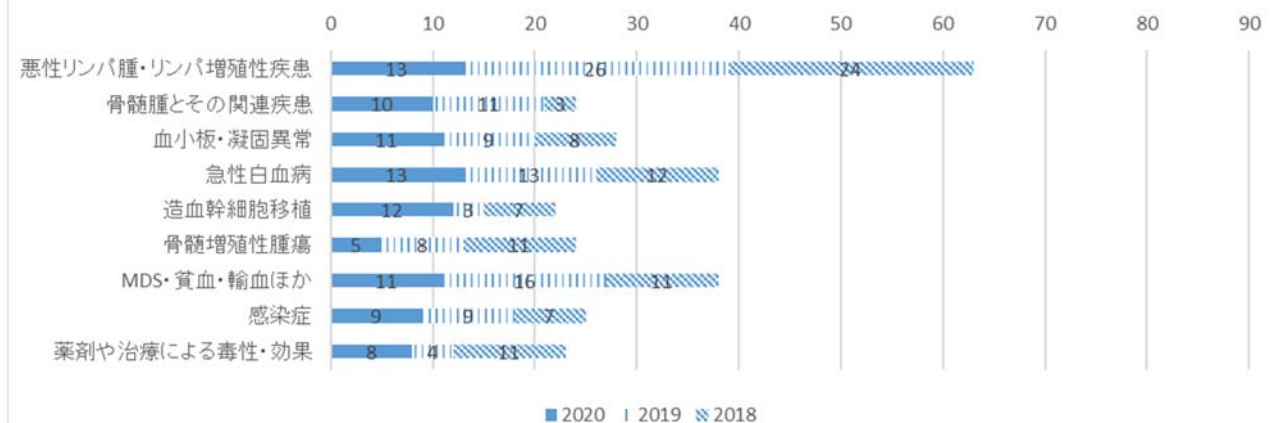
### ◆年度別採用率◆

	投稿数	採用数	採用率
2017年	118	86	72.8%
2018年	101	88	87.1%
2019年	106	85	80.1%
2020年	93	74	79.6%

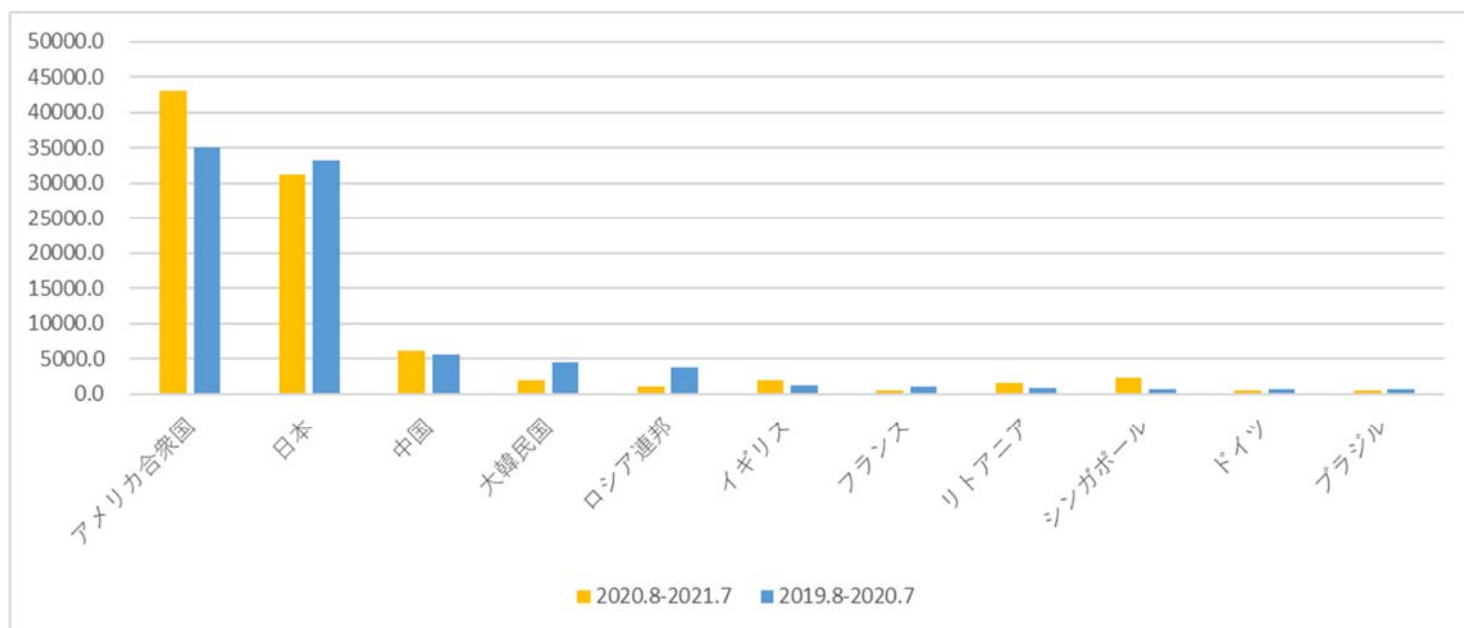
### 《連載コーナー》

- ・Picture in Clinical Hematology
- ・Introduce My Article
- ・Take Me Out to the Congress Abroad
- ・りんけつクイズ
- ・Rinketsu Dictionary

### 領域別論文投稿数



## J-STAGE 国別アクセス数 (2019年8月～2021年7月)



## 査読者 TOP10 2020 (敬称略) ※延べ査読数による

1	山口博樹	2	後藤明彦	2	田村秀人	4	冢子正裕	4	新井文子	4	長谷川大輔
7	角南一貴	7	川端 浩	9	土岐典子	9	入山規良	9	名和由一郎		

## J-STAGE アクセス数 TOP10 (2020年8月～2021年7月)

筆頭著者	論文タイトル	巻数	アクセス数
柏木 浩和	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2019改訂版	60	13,961
松本 雅則	血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) 診療ガイド2017	58	3,299
内田 智之	院内感染として発症した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の後方視的解析 -血液疾患と他の疾患との比較-	61	2,892
宮崎 香奈	CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 一分子基盤に基づく治療戦略	56	2,638
今井 陽俊	急性リンパ芽球性白血病-病態解明の進歩と治療の現在-	58	2,512
富山 順治	本態性血小板血症における妊娠, 分娩	34	2,401
新田 英昭	MYC関連B細胞リンパ腫の病態と治療	60	2,315
宮川 義隆	免疫性血小板減少症と血栓性血小板減少性紫斑病に対するリツキシマブ	60	2,176
原田 結花	慢性骨髄単球性白血病(CMML)一病態解明と治療の進歩	57	2,043
宮川 義隆	妊娠合併特発性血小板減少性紫斑病診療の参照ガイド	55	2,018
藤村 欣吾	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2012年版	53	1,820

## J-STAGE ダウンロード数 TOP10 (2020年8月～2021年7月)

筆頭著者	論文タイトル	巻数	DL数
柏木 浩和	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2019改訂版	60	18,661
宮川 義隆	妊娠合併特発性血小板減少性紫斑病診療の参照ガイド	55	10,428
藤村 欣吾	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2012年版	53	6,522
吉崎 和幸	キャスルマン病診療の参照ガイド	58	5,433
近藤 英生	中枢神経系原発リンパ腫治療の進展	61	421
萩原 政夫	本邦の血液疾患におけるCOVID-19のマネジメント	62	413
内田 智之	院内感染として発症した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の後方視的解析 -血液疾患と他の疾患との比較-	61	389
新田 英昭	MYC関連B細胞リンパ腫の病態と治療	60	386
森 慎一郎	COVID-19流行時における血液疾患の診断と治療の変化 -ASH, EHAの動向を踏まえて-	62	303
丸山 大	DLBCL/HGBCLの診断と治療戦略	59	236
土橋 史明	TKI時代におけるPh陽性ALLの治療	61	236

## 診 療

### 【医薬品等承認・供給】

#### 1. 要望書

- ・造血刺激因子製剤/トロンボポエチン受容体作動薬「ロミプレート皮下注250 $\mu$ g 調製用」の早期承認(海外製造品)の要望 (2020年11月 厚労省へ提出)
- ・「リンパ腫に対する大量MTX療法による中枢神経浸潤予防について」  
—適応外使用事例承認要望 (リンパ網内系学会と血液学会との共同申請)
- ・BRAF V600変異を有するエルドハイム・チェスター病 (ECD) に対する ベムラフェニブ：  
—医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議

#### 2. 2022年度社会保険診療報酬改定提案

- ・4月22日 血液関連委員会を開催：9学会が参加—提案内容の調整
- ・4月30日 内保連へ血液学会の最終提案書提出：未収載1, 既収載6, 医薬品2
- ・5月21日 血液関連委員会 内保連ヒアリング：6学会が参加
- ・6月8日 内保連より厚労省へ提案書提出
- ・8月3日 厚労省ヒアリング

#### 3. 医薬品関連の審議

- ・ボルテゾミブ (後発品) の流通管理について (ファイザーより学会へ問い合わせ)
- ・コホリン静注用7.5mg (ATL、HCL) 供給停止について (KMバイオロジクス)
- ・標準量チオテパのPCNSLに対する適応の要望について経過報告 (日本リンパ網内系学会)
- ・ブリナツモマブの適応症：CD19陽性を効能効果に追記することの是非について

#### 4. その他の審議

- ・2022年診療報酬改定に向けたDPC見直し (厚労省より依頼)
- ・新型コロナウイルスワクチン優先接種対象 (厚労省予防接種室より依頼)
- ・指定難病重症度基準について (指定難病検討委員会メンバーより意見照会)
- ・「選定療養として導入すべき事例等」の提案・意見募集 (厚労省保険局医療課)
- ・安定確保医薬品 供給不足が生じた場合の診療の選択肢の提示の検討について：厚生労働省医政局経済課より依頼

#### 5. 供給停止予定品目 (日本医師会・疑義解釈委員会) についての確認

- ・令和2年度第4回 供給停止予定品目
- ・令和3年3月 経過措置移行予定品目
- ・令和2年度 医療機器・体外診断用医薬品 供給停止品目
- ・令和3年度 医療機器・体外診断用医薬品 供給停止品目
- ・令和3年度 第1回 供給停止品目
- ・小林化工の後発医薬品承認取消しに伴う薬価削除予定品目のお知らせ (19品目)
- ・令和3年度 第2回 供給停止品目

## 診 療

### 【診療実務関連】

2021/3 JSH ホームページに掲載した COVID-19 についてのステートメント(新型コロナウイルス感染症蔓延下における血液疾患診療について—留意事項—)の査読

2021/7 JSH ホームページに掲載した COVID-19 についてのステートメント(新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 関連情報=新型コロナウイルスワクチン接種上の注意=)の査読

## 造血器腫瘍ガイドライン

### ● 造血器腫瘍診療ガイドライン第3版準備

#### 執筆委員

- 白血病：清井仁（領域委員長）他、AML 5名、APL 3名、ALL/LBL 6名、CML/MPN 7名、CLL/SLL 2名、MDS 5名
- リンパ腫：永井宏和（領域委員長）他、FL 2名、MALT リンパ腫/LPL/WM 3名、MCL 2名、DLBCL 3名、BL 2名、ENKL/PTCL 2名、ATLL 2名、HL 2名
- 骨髄腫：尾崎修治（領域委員長）他、9名

#### Systematic review チーム

- 白血病 47名：AML 8名、APL 6名、ALL/LBL 9名、CML/MPN 10名、CLL/SLL 4名、MDS 10名
- リンパ腫 31名：FL 4名、MALT リンパ腫/LPL/WM 4名、MCL 3名、DLBCL 5名、BL 3名、ENKL/PTCL 4名、ATLL 4名、HL 4名
- 骨髄腫：20名
- 

#### 評価委員

張替秀郎（評価委員長）

白血病：中島秀明（領域委員長）、後藤明彦、門脇則光、齋藤健

リンパ腫：石塚賢治（領域委員長）、山口素子、鈴木律朗、安藤潔

骨髄腫：中世古知昭（領域委員長）、照井康仁、服部豊、坂井晃

移植：内田直之

（放射線領域：江島泰生、田口千蔵、鹿間直人、長谷川正俊

#### 進捗状況

- 9月24日現在、クリニカル・クエスチョンの提案と評価終了
- 今後、systematic review チームによる構造化抄録の作成の後、ガイドライン執筆予定
- 2022年春にパブコメを募集予定

## 重篤副作用ガイドライン

厚生労働省が医薬品の使用により発生する副作用疾患に着目した対策整備として、平成17年～平成22年の間に整備した「重篤副作用疾患別対応マニュアル」の血液領域の9項目の改訂と免疫チェックポイント阻害剤に関する事項の新規作成依頼があり委員会を設立。

#### 改定項目

- ① 免疫チェックポイント阻害薬総論
- ② 再生不良性貧血（汎血球減少症）
- ③ 薬剤性貧血
- ④ 血小板減少症
- ⑤ 血栓症（血栓塞栓症、塞栓症、梗塞）
- ⑥ 播種性血管内凝固（全身性凝固亢進障害、消費性凝固障害）
- ⑦ 血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）
- ⑧ 出血傾向
- ⑨ 無顆粒球症（顆粒球減少症、好中球減少症）
- ⑩ ヘパリン起因性血症版減少症（HIT）

全項目の改訂版を2020年12月までに提出終了。

厚労省からの質問事項などについて対応を実施。

委員会としての対応は終了。

## ゲノム医療

2020年3月に、第2版となる2020年度版を発表した後、2021年5月に「造血器腫瘍ゲノム検査ガイドライン2021年度版」を発表した。2021年度版では、従来の造血器腫瘍に関連した遺伝子リストを「遺伝子・疾患別エビデンスレベル」として一部修正、アップデートして提供した。また、造血器腫瘍及びその類縁疾患を対象とした遺伝子パネル検査の使用法に関して、各疾患・病期ごとに検討し、現時点の科学的エビデンスに基づいた推奨度を「疾患・病期別パネル検査推奨度」として提示した。

## 研究助成

目的：血液学における基礎・臨床の研究（血液疾患患者の利益となる研究）を発展させることを目的として当学会が実施する研究支援事業。  
ピアレビュー（血液学分野の複数の研究者による審査）により、血液学の発展に貢献する研究に対し助成を行う。

助成件数：約100件

助成金額：1件当たり20万円～200万円

対象：血液学の臨床的・基礎的研究を対象とします。なお、薬剤を用いた介入研究は、対象外とします。

応募資格：日本血液学会会員で、上記の研究が可能な施設に所属する医師及び研究者（研究グループを除く）各講座（又は診療科）単位で申請できるのは、1課題とします。

申請期間：2021年6月1日（火）～6月28日（月）

審査期間：2021年7月5日（月）～8月2日（月）

採否決定：2021年9月中頃

## 応募・採択状況

	2020年	2021年
申請数	191件 基礎領域 61件 臨床領域 130件	192件 基礎領域 57件 臨床領域 135件
採択数	143件 基礎領域 42件 臨床領域 101件	147件 基礎領域 44件 臨床領域 103件

協賛：アッヴィ（合同）、サノフィ（株）、ノバルティス ファーマ（株）、  
ブリストル・マイヤーズ スクイズ（株）、

## 学術・統計調査事業

### 学術・統計調査

#### 1. 血液疾患登録事業

- ① 研究実施計画書改訂（第5版⇒第6版）  
疾患登録期間を2031年12月までに延長  
第5版での登録期間は2021年12月までですので、改訂をお願いします。  
必要書類はHPに掲載。
- ② 登録データ二次利用申請：3件
- ③ 疾患登録責任者変更手順書の記載整備  
専門医資格の要件確認
- ④ 2020年診断例 団体別施設登録数及び登録数



団体名	施設数*			登録数
	合計	登録あり	登録なし	
日本血液学会 (JSH)	571	401	170	42430
日本小児血液・がん学会 (JSPHO)	240	129	111	1633
国立病院機構 (NHO)	28	20	8	2408
合計	839	550	289	46471

## 多発性骨髄腫研究

1) 「日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模多施設前向き観察研究 (JSH-MM-15)」 目標症例数 : 1, 100 例

全登録例 : 1, 953 例 IRB 承認施設 : 77 施設、患者登録施設 : 67 施設

2021 年 12 月 31 日にて追跡終了～データ固定に向けた作業

(2021 年 8 月現在、研究事務局と代表者にて CRF レビュー実施中)

2) 「日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模多施設前向き観察研究 II (JSH-MM-20)」 目標症例数 : 1, 200 例 (多発性骨髄腫 795 例)

登録期間 : 3 年、観察期間 : 最終登録例の登録日から 5 年後まで

進捗状況 : 研究計画書、統計解析計画書、CRF (EDC) は完了

研究資金提供予定のヤンセンファーマ社と日本血液学会との契約書を検討中

契約書文案が確定すれば、参加施設の募集～中央 IRB 審査へと進める予定

2022 年初旬の登録開始を目指す

## JSH-MPN-15

「日本における骨髄増殖性腫瘍の予後に関する大規模多施設前向き観察研究」

デザイン : 多施設共同前向きコホート

研究対象 : WHO 分類 2017 の診断基準に基づいて新たに MPN (PV、ET、prePMF、PMF)

目標症例 : 1, 500 例 (ET 900 例、PV 500 例、prePMF/PMF 100 例)

主要評価項目 : 全生存率

検体保存 : ゲノム DNA の保存

登録期間 : 5 年 (2016 年 4 月～2023 年 3 月)

観察期間 : 10 年

進捗状況 (2021 年 6 月時点) :

倫理委員会承認施設 : 53 施設→63 施設 (症例登録施設は 50 施設)

登録症例数 :

635 例 (2021 年 3 月末時点) →711 例 (2021 年 6 月末時点) →750 例 (2021 年 7 月末)

## JSH-MPN-R18

「日本における真性多血症および本態性血小板血症患者の臨床像、生命予後およびイベントリスクに関する多施設後方視的研究」

論文投稿中

## J-SKI研究

### 「慢性骨髄性白血病患者に対するチロシンキナーゼ阻害薬中止後の無治療寛解維持を検討する日本国内多施設共同観察研究」

- ・すでにTKIを中止したまたは中止予定であるCML患者の臨床情報を収集し、TKI中止後の無治療寛解に関する長期予後を調べる観察研究。

#### 目標症例数と研究期間

- a) 予定登録症例数：1200例（新規TKI中止患者600例＋過去のTKI中止患者600例）
- b) 予定登録期間：倫理審査委員会承認日から2024年3月31日（5年間）
- c) 研究期間：倫理審査委員会承認日から2029年9月30日（10年間）

症例登録状況（2021年8月20日時点）

登録症例数：433例（50施設から）

### 「日本における血液疾患患者を対象とするCOVID-19罹患状況、予後に関する横断研究」

- ・対象：日本血液学会疫学調査「血液疾患登録」に登録されている患者で、COVID19の確定診断を受けた患者
- ・主要評価項目：診断後2ヶ月時点での全生存率
- ・目標症例数：100例
- ・予定登録期間／研究期間：倫理審査承認から1年／2年
- ・症例登録数（2021年8月23日時点）：60例（19施設から）

## COVID-19ワーキンググループ報告

以下のステートメントをホームページ上で発出

- ・新型コロナウイルス感染症蔓延下における血液疾患診療について—留意事項—（2021.3.15）
- ・新型コロナウイルスワクチン接種上の注意（2021.7.21）

## ICD11

1. 専門領域に該当または関連する範囲の確認作業（2021年3月回答）
  - ・WHOにおいて新たに追加・修正された用語のうち、担当学会が不明の用語（28,459語）について、日本血液学会が担当すべきと考えられる用語をチェックした（計721語）。  
前回依頼時の日本血液学会専門領域と併せて計4,028語となる。
2. MMS版和訳作業（2021年8月回答）
  - ・日本血液学会担当の用語について和訳作業を行った。  
計592件（新規129件、要確認106件、前回と同じ357件）
  - ・リンパ網内系学会の山口素子先生（三重医大）と竹内賢吾先生（癌研有明病院）にご協力をいただいた。
3. 今後の作業（回答締切 2021年12月6日）
  - ・厚労省よりMMS版に続いてFoundation版の和訳作業の依頼。
  - ・現在、厚労省担当部署へMS版和訳ファイルからFoundation版ファイルへの和訳データの移行を依頼中。

## 人材育成事業

### 専門医認定制度

- 1) 専門医等取得状況 2021年8月20日現在

専門医	4,183名
指導医	2,296名
血液研修施設	347施設
血液専門研修認定施設	304施設
血液専門研修教育施設	129施設
- 2) 専門医認定試験

2021 年度（第 30 回）血液専門医認定試験

日 時 2021 年 10 月 31 日（日）13:00～15:00

会 場 ベルサール東京日本橋 B2 ホール（東京都）  
国立京都国際会館 アネックスホール（京都市）

3) 新専門医制度への対応

- ・研修実績登録について：血液研修実績登録システム運用開始（専攻医サイト・指導医サイト）
- ・「新血液専門医プログラム」の改訂
- ・日本専門医機構認定へ向けての準備・検討
  - 整備基準の作成
  - サブスペシャリティ領域専門医検討委員会の設置
  - 要望書の提出：血液専門医名称の継続について

## 教 育

1. 第 13 回「研修医（初期・後期）のための血液学セミナー」について

開催概要

形式：完全 Web 形式

日時：2021 年 8 月 28 日（土）

14 時～18 時：一般プログラム

全体ケーススタディー 2 枠：白血病、リンパ腫

ランチョンセッション：骨髄腫（共催セミナー）

グループセッション 2 枠：血球減少、止血・凝固

18 時～19 時：Ask the expert（希望者）

15 のテーマの中から参加者の興味がある領域でエキスパートとの懇談

参加費：3,000 円

募集期間 2021 年 6 月 14 日～7 月 9 日

参加希望者数：207 名 → 最終参加者 192 名（16 グループで対応）

Ask the Expert 参加者：82 名

2. 第 11 回若手臨床血液学セミナーについて（日本血液学会「協力」）

ノバルティス、協和発酵キリン、二社主催にて実施終了

完全 Web にて開催（配付資料はこれまで同様に印刷物として準備）

令和 3 年 11 月に 3 日間に分割して開催予定

11 月 13 日（土）内科・小児科共通：9:00 - 15:10

11 月 14 日（日）内科コース：9:00 - 11:40

小児科コース：12:25 - 17:05

11 月 21 日（土）内科コース：9:00 - 11:40

内科・小児科共通：12:25 - 15:45

\*内科：15 コマ、小児科：13 コマ

Web スタッフ会場：赤坂インターシティコンファレンス（予定）

募集期間：2021 年 9 月 1 日～9 月 30 日

参加費用：11,000 円

\* 免疫療法、形態セッション、内科・小児コースあり。

## 普及啓発事業 広 報

### 1) 日本血液学会ニュース（メール便）定期便および臨時便の発行

#### ① 2021 年度（令和 2 年 8 月～令和 3 年 7 月）の発行回数

定期便 12 回

臨時便 34 回：学術集会、JSH 国際シンポジウム、研修医のための血液学セミナー、若手臨床血液学セミナー、MPN 観察研究、JSH-MPN-R18 研究：研究期間終了、血液疾患症例登録、日本学術振興会賞、育志賞の募集案内、海外派遣プログラム参加者募集、年会費納入のお願い、地方会開催案内、新評議員申請 受付開始のお知らせなど

海外メール配信 11 回：学術集会、JSH 国際シンポジウム、新年の挨拶、2021 年度年会費の案内

#### ② 上記①以外のニュース便を配信

- ・ 2020 年 9 月：第 8 回定時社員総会のご案内（インターネットによる議決権行使）
- ・ 2020 年 10 月：第 8 回定時社員総会 参加方法のお知らせ（ZOOM ミーティング）
- ・ 2021 年 6 月：COVID-19 登録事業（JSH-COVID19-20）に登録開始に関して
- ・ 2021 年 6 月：日本血液学会研究助成事業 実施のご案内
- ・ 2021 年 6 月：「造血器腫瘍ゲノム検査ガイドライン 2021 年度版」公開のお知らせ
- ・ 2021 年 7 月：COVID19 ワクチン接種時の注意喚起（ITP, PNH）

#### ③ 海外へのプロモーション

海外会員及び EHA, ASH Congress にて取得した海外研究者／関係者の E メールアドレス宛に、JSH 国際シンポジウムおよび学術集会の諸案内を配信

#### ④ 配信数：テキスト版・HTML 版を合わせ 7,316 件（2021 年 7 月号での会員宛配信実数）。昨年 7 月配信数（7,144 件）より 172 件増加

### 2) 日本血液学会ホームページ

- ・ 日本血液学会ホームページの改修
- ・ 学術集会抄録集アーカイブ第 82 回を追加
- ・ 血液専門医認定試験情報（延期のお知らせ）
- ・ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連情報
- ・ 「COVID-19 罹患状況、予後に関する横断研究」登録開始のお知らせ
- ・ 第 13 回研修医（初期、後期）のための血液学セミナーのお知らせ

## 学会活性化

- ・ 2020 年に発足。
- ・ 学会活性化の施策を横断的・俯瞰的に検討する委員会。
- ・ 委員会で提案されたおもなポイント
  - 若手が主体となる活動
  - Community hematologist が主体となる活動
  - 女性活躍と働き方改革
  - 患者向け情報発信の促進
- ・ 日本血液学会ニュースで、学会活性化に向けた提案を会員から募っている。

## 地方会活性化

- ・ 学会活性化委員会の下部組織として 2020 年に発足。
- ・ 地方会間の情報交換を促進し、地方会活性化や若手のリクルートに役立てる。
- ・ 各地方会の現状と取り組みを把握するために、地方会事務局にアンケートを行った。
- ・ アンケート結果のおもなポイント
  - 運営ノウハウの情報交換
  - 研修医・学生向けの勧誘プログラム
  - 地方会事務局の財源確保

- 本体事務局と地方会事務局の連携による業務の効率化

## 女性活躍

1. 会員構成  
女性：18.8%（2009年）⇒24.2%（2020年）  
男性：81.2%（2009年）⇒75.8%（2020年）
2. 評議員構成  
女性：5.8%（2012年）⇒10.1%（2020年）  
男性：94.2%（2012年）⇒89.9%（2020年）
3. 地方会女性枠運用実績（2015年—2020年（6年間））  
新評議員 267名（男性210名（78.3%）：女性57名（21.3%）  
（うち女性枠評議員26名（9.7%））
4. 学術集会における女性シンポジウムの開催  
女性医師シンポジウム（第83回学術集会）
5. 今後の課題
  - ・学術集会における女性座長、女性シンポジスト、女性演者の起用
  - ・各種委員会の女性委員の起用
  - ・学会のホーム・ページのコンテンツ（活躍する女性医師からのメッセージ）等の掲載 など

## 賞 等

- 1) 日本血液学会賞：副賞100万円  
千葉 滋（筑波大学医学医療系血液内科教授）  
代表研究：骨髄異形成症候群から血管免疫芽球形T細胞リンパ腫への道
- 2) 日本血液学会功労賞：副賞50万円  
池田康夫（早稲田大学教授・日本血液学会第6代理事長）  
金倉 譲（住友病院院長・日本血液学会第7代理事長）
- 3) 奨励賞（第82回日本血液学会学術集会発表）：副賞各30万円 ※所属は発表当時  
入船 秀俊（九州大学大学院病態修復内科）  
Identification of GPAT1-dependent mitochondrial metabolism as a novel therapeutic target for AML  
木原 慶彦（順天堂大学大学院 血液内科）  
Therapeutic potential of myeloproliferative neoplasms by antibody targeting mutant calreticulin  
佐伯 龍之介（京都大学 腫瘍生物学）  
Landscape of gene mutations and copy number alterations in clonal hematopoiesis  
酒井 和哉（奈良県立医科大学輸血部）  
HLA-DR molecules with different binding motif could recognize shared ADAMTS13 peptide to develop TTP  
坂田 飛鳥（奈良県立医科大学 血栓止血医薬生物学）  
Extravascular coagulation precedes intravascular primary hemostasis  
濱田 太立（名古屋大学 小児科）  
Diagnostic whole exome sequencing for 166 patients with inherited bone marrow failure syndrome  
原田 介斗（東海大学 血液腫瘍内科）  
Mitochondrial complex II dysfunction leads to stem cell aging and myelodysplastic syndrome  
福本 浩太（筑波大学 人間総合科学研究科）  
VAV1 mutations contribute to development of T-cell neoplasms in mice  
藤野 赴至（東京大学 細胞療法分野）  
Combination of ASXL1 mutation and Stag2 loss lead to development of myelodysplastic syndromes  
綿貫 慎太郎（国立国際医療研究センター研究所）  
Integrative analysis reveals significance of metabolic programs of aged hematopoietic stem cells

- 4) 日本白血病研究基金助成 (学会推薦)  
木原 慶彦 (順天堂大学大学院 血液内科)
- 5) 若手論文賞：副賞各 30 万円  
越智 陽太郎 (京都大学大学院医学研究科 腫瘍生物学/次世代腫瘍分子創薬講座)  
森田 剣 (Dana-Farber Cancer Institute/東京大学医学部附属病院血液・腫瘍内科)  
渡邊 達郎 (佐賀大学 創薬科学共同研究講座)
- 6) 外郭団体各賞
  - ・推 薦：太田原豊一賞
  - ・推薦募集：藤原賞、慶應医学賞、日本学術振興会賞、持田記念学術賞、日本学術振興会育志賞、日本医師会医学賞、日本医師会医学研究奨励賞、文部科学大臣表彰
- 7) JSH Abstract Achievement Award for The EHA2021 Virtual Congress 選考

## 倫 理

日本血液学会学術集会への演題募集における倫理手続きに関する指針について

- ・登録時に 倫理的手続きを確認できない場合は、演題登録ができない旨の予告を第 83 回総会から開始
- ・2023 年の第 85 回日本血液学会学術集会から演題登録時に開示していただく形式に変更した

## COI

1. 規定、申告書の改訂および日血HP 利益相反ページの更新
  - ・日本血液学会 講演会および機関誌における利益相反 (COI) の開示
  - ・Disclosure of Conflict of Interest (COI) in Conferences and/or Official Journals of the Japanese Society of Hematology (JSH)
  - ・COI Self-Report Form in Conferences [英語版]
  - ・学会HPの関連リンク改定
    - ・日本内科学会 医学系研究の利益相反(COI)に関する共通指針 (2020 年 3 月一部改定)
    - ・日本医学会 COI 管理ガイドライン (2020 年 3 月一部改定)
2. COI 自己申告の実施
  - ・本学会主催の学術集会発表者 (共同演者を含む)  
※本年より演題登録時に申告
  - ・本学会機関誌 (臨床血液、IJH) で発表を行う著者全員
  - ・本学会役員 (理事長、理事、監事)、学術集会会長・次期会長、・国際シンポジウム会長、次期国際シンポジウム会長、各種委員会のすべての委員長/副委員長、特定の委員会委員など)
3. 役員 COI 自己申告書について、COI 委員長による調査を実施